

「学力」につながるメディア・リテラシー教育の研究

——メディア・リテラシー教育における「批判的読解力」と「学力」との接点——

A study of media literacy education to develop academic ability

—A intersection of critical reading in media literacy education and academic ability—

コース 社会学

学生氏名 脇谷 和明

指導教員 串田 秀也

キーワード : メディア・リテラシー 批判的読解力 学力
(media literacy) (critical reading) (Academic ability)

メディアが報道する内容というものは決して一つの「真実」ではなく、送り手の観点から構成された「真実」の見方の一つに過ぎない。こうした点に長年無自覚だった私は、情報を吟味しながら読み解く、メディア・リテラシー教育の「批判的読解力」に関心をもった。子どもに「批判的読解力」を育みたいと考えたが、私はメディア・リテラシー教育を受けたことがないのにも関わらず、「批判的読解力」に関心をもち、物事を批判的に読解しようとしている。それならば、学校教育にはメディア・リテラシー教育は必要ないのだろうか。

しかし、子どもは誰もが、自ら、毎日のようにメディア、特にテレビに接している。このテレビ視聴という行為は、子どもに共通の経験であり、子どもはそれについて非常に豊富な知識を持っていることが期待でき、何より学校で学んだことが家庭において、無理なく活用できるものであるため、授業の教材として非常に価値があると考えます。

本稿では、「学力」と無関係に論じられがちなメディア・リテラシー教育における「批判的読解力」を、この「学力」との接点で論じていく。本研究の目的は、メディア・リテラシー教育における「批判的読解力」の育成が「学力」とどのように関わっているのかを明らかにすることである。

そのため、第一に「批判的読解力」が何なのかを規定せねばなるまい。何ができるようになれば批判的読解力があるといえるのであろうか。また逆に、何をできなければ批判的読解力は満足でないのだろうか。そこで「批判的読解力育成の目標」を論じる必要がある。第二に「学力」とは何かを規定せねばなるまい。そして、第三に「批判的読解力」と「学力」を結び付けるものは何かである。この両者の接点を結び付けるために、メディア研究を概観して、その方法論から有効な手立てを見出そうと考える。

第1章では、こうした私の問題関心を述べ、第2章では「情報」の考察からスチュアート・ホルのエンコーディング／デコーディング理論を参考にし、「批判的読解力」育成の大枠の目標を提示した。続く第3章では、ウォルター・リップマンの『世論』を主に参考にし、その目標とする項目を具体的に提示した。第4章では、こうした項目を育むため、実際にニュース番組をどのように利用できるかを、2008年4月22日（火）の晩に放送された「光市母子殺害事件の死刑判決」の事例分析を通して考察した。そこから、「なぜ“他”でなく“こう”なのかという意識」が、分析視点において重要であることを明らかにした。そして第5章において、この「なぜ“他”でなく“こう”なのかという意識」が「批判的読解力」と「学力」との両者を育むために共通する視点であることを明らかにしたのである。